

活断層の重点的調査観測の対象選定について

平成 23 年 2 月 7 日

地震本部事務局

断層の重要度、調査の難易、地元自治体の要望等を総合的に検討した結果、来年度開始する活断層の重点的調査観測の対象として、警固断層帯を選定したい。

1. 警固断層帯を選定とする理由

長期評価結果に基づくと、警固断層帯（南東部）で地震が発生した場合、140 万人程度が震度 6 強の揺れに見舞われる可能性がある。警固断層帯では福岡市・福岡県等により様々な調査が実施されているが、断層の特性が完全に把握されている訳ではない。このため、新たな調査を実施することにより、長期評価の精度をさらに向上させることが地震リスク評価上重要である。また、他の断層と比較した場合、地震発生確率（30 年）および地震後経過率が相対的に高く、地震発生の可能性が高いと推定される。地元自治体からは、調査に対して積極的に協力したいというご意見をいただいている。

2. 警固断層帯で必要とされる調査

断層の長さや同時に活動する範囲については、陸域の警固断層と博多湾内の断層で得られた活動回数・時期に違いがみられるため、両者の関係について、さらに検討する必要。地表における分布は多く調査されているが、地下の断層の位置・形状については、さらなる調査が必要。特に、陸域の警固断層南端部については詳細な調査が望ましい。過去の活動時期については、さらに調査を行い、各区間の活動履歴を明らかにすることが望ましい。また、福岡平野周辺には、警固断層と並行して宇美断層・脊振山東断層が存在するが、これらは 10km 程度以内で近接し、かつ類似の性質を持つと考えられることから、これらの断層の性質についても同時に調査することが望ましい。